

万次郎人生の概観⑪

「咸臨丸で渡米して万次郎が購入してきた物」

(1)万次郎が咸臨丸で持ち帰った物

「ロコミ」「太陽族」等の造語・流行語を産み出したジャーナリスト・大宅壮一(1900-1970)は、「万延元年(1860)に遣米使節団に選抜されて渡米した人は150人を超えていたが、万次郎のように米国から物品を購入して帰国した人は少なかった」との趣旨のことを述べている。では万次郎はどのような物を購入したのだろうか。

①写真機

1839年フランス人ダゲレオによって、発明された箱形の写真機を万次郎は購入した。購入した理由は、母を撮るためだと万次郎は述べている。母を撮った写真は発見されていない。万次郎が多忙でそのゆとりもなかったのであろう。

当時、長崎には写真機を持った人も複数おり、写真機自体は日本人に認知されていた。しかし、江戸ではまだ珍しく、万次郎の住む芝銀座の江川邸には、写真を撮ってほしいと万次郎を訪問する人が多く、多忙だったと伝えられる。

②ウィルソン社製ミシン

1851年頃にウィルソン社、グローバー社、シンガーミシン社の3社がほぼ同時にミシンの販売を開始した。当時ミシンは高価で、大きな業務用の物が主流であった。ウィルソン社では家庭でも使用できるような3kg以下の小型の物を製造し、一般家庭にミシンを普及させた。シンガーミシンは、月賦で購入できるよう月払い制度を導入して売り上げを伸ばした。ミシンは機械本体だけでなく、ウォールナットの箱や付属品を付けたり、装飾を施したり、一つの高級家具のようなステータスがあった。

③アコーディオン

万次郎が捕鯨船に乗っていた頃、船員同士でよくアコーディオンを弾いて、歌を唄ったという。小笠原開拓時に万次郎は母島を立ち去るときに島の人たちとの別れにこのアコーディオンを弾いたという。湿っぽい空気が一変し、明るい雰囲気になったという。

④書籍

- ・フロスト著『図説米国海軍史』1冊
 - ・マレー著『図説米国史』1冊
 - ・『米国海軍南半球天文調査報告』1冊
 - ・パーキンス著『代数学原理』1冊
 - ・オルムステット著『物理学入門』1冊
 - ・ワイスバッハ著『機械工学原理』2冊
 - ・『新聞フレンド』誌 8年間分 1冊
 - ・『ウェブスター英語辞書』1859年発刊2冊 ……万次郎と福沢諭吉の二人が購入した。
- ※そのことが福沢諭吉『福翁自伝』に記されている。

—今後の市史普及啓発活動—

9月15日(金) 「令和5年度幡多地区文化財保護連絡協議会」
13:00～14:00
三原村立公民館
演題「土佐清水市史編さん事業の取り組みについて」
講師 市史編集委員会【田村 公利】委員長

9月16日(土) 「市史編さん講演会」「郷土史同好会9月定例会」
土佐清水市郷土史同好会と土佐清水市教育委員会共催
10:00～11:30
中央公民館3階・多目的ホール
演題「市史編さんにおける学校教育史」
講師 市史編集委員会【谷岡 暁美】編集委員

13:30～15:00
「幡多地区認定こども園職員研修会」
演題「中濱浜万次郎について」
講師 市史編集委員会【田村 公利】委員長

9月20日(水) 「足摺岬小学校3～4年生・社会科」
10:00～11:40
ガイド「松尾地区フィールドワーク」
指導 市史編集委員会【田村 公利】委員長

9月21日(木) 「清水中学校2年生・総合的な学習」地域学習
11:40～12:30
出前授業「足摺半島地域学習」
授業者 市史編集委員会【田村 公利】委員長

10月29日(日) 「土佐清水市立市民図書館歴史講座」
13:30～15:00
演題「中濱万次郎初級講座」
講話 市史編集委員会【田村 公利】委員長

【編集後記】

今日は、午後から資料編「第1章中世～近代文書」のゲラ校正に市史執筆協力員で土佐清水市郷土史同好会顧問の山下晃弘協力員が市史編さん室に来室。山下協力員には、「第4節『長宗我部地検帳』について」の執筆を依頼し、市域の『地検帳』の給地状況などについてまとめていただいています。

高知城歴史博物館に所蔵している『地検帳』原本と照らし合わせ、細かい地検帳の耕地の面積などをエクセルデータで計算するなど今までにない資料提示をすることができています。発刊が楽しみです。『資料編』編集が今、佳境に入る。(田村)